

JRC 蘇生ガイドライン 2015

一般社団法人 日本蘇生協議会 監修

本の価値はいったい何で決まるのだろうか？ わかりやすく言えばそれは、その本によってどれだけの人が救われるかということではないだろうか。そして、救われるのが死に瀕して助かる命だとしたら、その本の価値は何にも代え難いものだろう。この本がまさにそんな本だ。

人ががんや寿命で死ぬとき、人は死を自覚し、死を受容し、受容しないまでも納得して、あきらめて、死ぬことができる。しかし、突然の病気で死に至るとき、あるいは不慮の事故に巻き込まれて死に至るときは、死を思う時間さえも与えられない。人生を振り返る時間もない。だから、突然の死からできるだけ多くの人を救ってあげたい。全ての医療者は、いや全ての人は、家族は、そう願っている。その願いを叶えるのがこの本だ。

本書は、突然襲う心肺停止から人をどのように救ったらよいのかを、科学的に、医学的に、そして経験的に示した手引書である。

本書は日本蘇生協議会（JRC）が精魂込めて作成したものである。野々木宏編集委員長（静岡県立総合病院院長代理）をはじめ総勢 188 名からなる編集委員や作業部会員の汗の結晶でもある。AHA（米国心臓協会）や ILCOR（国際蘇生連絡委員会）の冠が付いたガイドラインではなく、JRC を頭に置いているところに注目したい。もちろん、国際的なコンセンサスに沿ってはいるが、わが国の実情に則して日本の国民のために、あえて JRC が策定したものである。

蘇生科学領域におけるわが国の役割は近年急増し

ている。それは長年にわたって全国的な院外心停止大規模データベースの収集と解析がなされ、多くの有意義な蘇生情報を国際発信してきたことに裏付けられている。また精力的に市民への蘇生活動普及が図られ、蘇生実施率向上などの効果を上げつつある。

本書には、市民用 BLS アルゴリズム、医療用 BLS アルゴリズム、NCPR（新生児蘇生法）アルゴリズムなど、最新のアルゴリズムが提示されている。本書には推奨と提案に対する PICO 質問形式やアウトカムとエビデンス評価に対する GRADE システムが導入されている。さらには、ファーストエイドや蘇生法の普及・教育への提言も盛られている。まさに蘇生の百科事典と言っても過言ではない。

本書は、目の前で急変する患者を救わなければならない全ての医師、全てのメディカルスタッフ、医学生、そして救急救命士たちの良き手引き書となるであろう。いや市民一人ひとりもこの本に教えられ、また救われるだろう。本書は、不慮の死から蘇るための国民の福音書とも言えるものである。

わが国で心肺蘇生法の普及に長年尽力されてきた JRC 名誉会長の岡田和夫先生（本書顧問）も出版をきっとお喜びのことだろう。岡田先生に心から感謝申し上げたい。

九大医学研究院教授・麻酔・蘇生学
外 須美夫

A4 頁 592 2016 年 2 月
定価：本体 4,500 円＋税
[ISBN978-4-260-02508-9] 医学書院刊